

## 北海道PCB廃棄物処理事業監視円卓会議（第41回）開催結果概要

- 1 日時  
平成29年6月5日（月）14:30～17:00
- 2 場所  
PCB処理情報センター（室蘭市御崎町1丁目9番地8）
- 3 出席者  
監視円卓会議委員、登別市、伊達市、環境省、中間貯蔵・環境安全事業株式会社（JESCO）事務局（北海道、室蘭市）  
傍聴者：14名 報道：2社（北海道新聞・室蘭民報社）
- 4 委員紹介  
第7期の委員に選任された13名の委員の紹介が行われた（欠席3名）。
- 5 座長及び副座長選出  
委員の互選により座長に眞柄委員が選任されるとともに、座長の指名により副座長として吉田委員が選任された。
- 6 内容
  - (1) 第40回監視円卓会議議事録について
  - (2) 北海道PCB廃棄物処理事業の進捗状況等について
  - (3) 内部技術評価について
  - (4) 環境省及び道における、今年度のPCB関係事業の概要について
  - (5) その他
- 7 議事概要（眞柄座長の司会により議事進行）
  - (1) 第40回監視円卓会議議事録について  
委員からの意見等はなかった。
  - (2) 北海道PCB廃棄物処理事業の進捗状況等について
    - ① 北海道事業の進捗状況等について  
JESCOから資料3-1～3-4に基づき説明。

<ul style="list-style-type: none"><li>・変圧器類、コンデンサ類の処理は平成29年3月末現在で、それぞれ84.6%、86.5%</li><li>・安定器・汚染物等の処理は平成29年3月末現在で、30.8%</li><li>・前回の監視円卓会議（平成29年2月15日）以降、2～4月分のトラブル事象1件、不具合事象10件、不具合事象未済13件発生</li><li>・3月4日に発生した真空ポンプ吐出フランジからの第2再生溶剤の漏洩（区分IV）について経過等について説明</li></ul>
---

主な質疑等は以下のとおり。

（座長）事業の進捗状況について、処理完了までの工程図と、その工程図に対応する見込み図を示し、対応可能であることを見越していく必要がある。

（委員）1都3県分の受入にあたって示された搬入量よりも多くなっており、さらに多くなるのではないかと。

（JESCO）PCBが含有していないものを仕分ける等により、現時点では期限内に処理

- できると考えている。
- (委員) 環境省は登録重量がどの程度まで増加すると見込んでいるのか。
- (環境省) 明快な回答はできないが、期間内に調査を進め、早期の完了ができるよう支援を行っていく。
- (座長) ポンプの交換にあたっての日程の余裕、作業実施者の対応状況、水平展開や再発防止対策について J E S C O の見解はどうか。
- ( J E S C O ) ポンプの交換自体は 1 日で終わるような内容、作業は工事受託者の監督のもと下請業者の作業員が実施する形態であった。再発防止については関係業者間での協議を行い、今後実施していくものを打ち出したもの。
- (委員) 工事の完了確認は発注者である J E S C O が行うものということで良いか。
- ( J E S C O ) フランジが締まっているかというまでの確認は J E S C O では行っていない。工事受託者の責任において任せている。
- (委員) J E S C O が発注して、工事受託者が完了させて、 J E S C O が完了検査を行って引き渡しを受けるもの。 J E S C O はやるべきことをやっていればこの事案は防げたのではないか。
- (座長) 発生原因に対する対策、繰り返し起きないように対応をどうするがもう少し考えること。また、工事受託者、下請け、運転会社間の情報の伝達機構の曖昧さについて再点検して再発防止策と水平展開について工夫をしていただきたい。
- ( J E S C O ) 訂正事項として漏洩発生時点においては J E S C O への引き渡しは終わっていないかったもの。
- (座長) J E S C O が引き渡しを受けていないのになぜ再生溶剤をプラントの中で動かしたのか。責任を明確にしてもらいたい。

② 環境モニタリング測定結果等について

事務局から平成28年度環境モニタリング測定結果及び立入検査の実施状況を、資料 3 - 5 ~ 3 - 6 に基づき説明。

- ・ 前回会議以降、結果が確定した12月から3月までの測定結果では、周辺環境と排出源いずれの測定結果も基準値から十分低い値となっており、特に問題となる値は検出されていない。
- ・ 前回会議以降、6回の立入検査を実施。モニタリング実施時の運転状況の確認のほか、トラブル事象の確認を行っている。

質疑等はなし。

(3) 内部技術評価について

J E S C O から北海道 P C B 処理事業所の内部技術評価について資料 4 に基づき説明。

- ・ 内部技術評価は、施設の健全性と運転、操業の確実性の確保と、それらの維持向上を図るため、各処理施設につきまして、毎年 1 回実施しているもの。
- ・ 北海道事業所では、昨年 1 2 月に 9 回目の内部技術評価を実施したところであり、その評価結果を報告する。
- ・ 改善、是正すべき指摘事項はなかった。適合事項についてさらに改善のための意見を付す、あるいは特記すべきような点があったものに対する所見は 4 点あった。
- ・ 4 点の所見の内容は、  
運転廃棄物の減容化のための破碎機の早期導入。  
プラズマ溶融分解設備での運転効率化の取り組みは他事業でも参考となること。  
工事説明会の記録は正式な議事録とすること。  
作業手順書の見直しを毎月迅速に行っており他事業でも参考となること。
- ・ このほか、昨年度の所見について取り組みが進められていることを確認した。

主な質疑等は以下のとおり。

(委員) 今回発生した溶剤の漏洩等のトラブル事象があった場合に、報告書に所見が入る可能性があるのか。

(J E S C O) トラブル事象への対応、他事業所への水平展開は都度行っている。この内部技術評価では、全般的な管理について網羅する体系的に捉えるということで、年に1回捉え直しているもの。

(委員) 設備の経年劣化への対応等について、それらの計画は評価されているのか。

(J E S C O) 各処理施設では長期保全計画を策定することにしており、対応の進捗状況については、内部技術評価にも含めている。

#### (4) 環境省及び道における、今年度のPCB関係事業の概要について

##### ① 平成29年度環境省PCB関係予算等の概要

環境省から今年度のPCB関係事業の概要について、資料5-1に基づき説明。

- ・ PCB廃棄物適正処理対策推進事業について、掘り起こし調査の効率化、早期完了に向けた取り組みのほか、低濃度PCB廃棄物の処理促進に向けた取り組みを実施。
- ・ PCB廃棄物対策推進費補助金について、改善命令、最終的には代執行に対して自治体の負担を軽減するための基金を国と製造業者で設立することとし、国からは毎年度1億円の予算を計上し基金を造成するもの。また、今年度の新規増額事業としてPCB使用照明器具のLED化によるCO2削減推進事業を立ち上げている。
- ・ 環境省地方環境事務所における体制強化としては、西日本で人員を増強しているほか、北海道事務所や処理エリアとしての東北、関東の地方環境事務所に1名ないし2名の職員に併任として、PCB廃棄物の処理、自治体との密な連携がとれるような体制をこれから構築していくもの。
- ・ 全関係省庁からそれぞれの業界団体に対してPCB廃棄物の処分期間内の早期処理を呼びかける通知文書を発出しているほか、チラシやポスターの掲示、マスメディアを活用した広報を実施している。
- ・ 全国30都市で説明会を実施している。

主な質疑等は以下のとおり。

(委員) 今になって補助をすることとなったが、早期処理した者が損をするような施策は納得できない。国民が一生懸命やるということに対する誠意をきちっと見せることが日本国内からPCBをなくす第一ではないか。掘り起こしについて、説明会やチラシで周知を図ることとしているが、もっと工夫すべき。また、PCB担当職員をきちんと配置することが必要である。

##### ② 平成29年度北海道PCB関係事業の概要

道から3月に変更した処理計画を踏まえた今年度のPCB関係予算及び事業の概要について、資料5-2に基づき説明。

- ・ 北海道PCB処理計画の変更概要を説明し、その内容を具体的に実施するための予算及び人員配置について説明。
- ・ 掘り起こし調査の流れについて説明し、プロポーザルで企業からの提案を受けて委託により広報等も併せて実施することを説明。
- ・ 地方自治体の率先処理について、先行して道有施設について実施した安定器の調査結果について説明。

主な質疑等は以下のとおり。

(座長) 処理を遅らせた方が得をするというような行政的な運用は決してしないように心が

けていただきたい。道の掘り起こしは他県が実施しているものと変わらない。他のモデルとなった北九州のように率先した取り組みが必要。また、他都県に対して連絡会議等の席では、掘り起こしの損直状況についてチェックするとともに、互いに水平展開をしていき、道のみならず、他県を督励するようなものとするべき。

(座長) J E S C Oには、多くの関係者間の意思の伝達機構について、臨時の下請も含めて再確認をお願いしたいと思います。北海道と室蘭はP C Bの処理期限を達成するためにさまざまな努力を重ねているというモデルになるような事例をどんどん公表して督励するということをお願いしたい。それが、環境都市を目指す室蘭の全国に対するプロパガンダとなる観点からもさらに工夫をしてもらいたい。